

## 狩勝高原園地再整備事業計画（案）



平成29年8月

新 得 町

## 1. 狩勝高原地区の概要

新得町は十勝平野の最西部に位置し、東西 30.76 km、南北 62.29 km、総面積 1,063.83 km<sup>2</sup>で、東は鹿追町、上士幌町に接し、南は清水町、西は上川管内南富良野町、北は同管内美瑛町、上川町に接している。北部一帯が総面積の 70%を占める大雪山国立公園の国有林で、南部は十勝川流域の屈足地域、佐幌川流域の新得地域、その中間台地の上佐幌地域の 3 地帯に分かれており、それぞれ農耕地帯となっている。

本町の基幹産業は農林業で、農業は山麓特有の冷涼な自然条件を生かした畑作、酪農、肉用牛飼養の大規模経営が展開されており、林業は広大な国有林を背景に、木材の集散、加工事業により発展し、現在 4 カ所の木工場が操業している。

当該地区は、新得地域の北部に位置し、サホロスキー場を中心とした狩勝高原周辺にリゾート地が形成されており、クラブメッド・北海道やサホロリゾートホテル、ゴルフ場、ベアマウンテンなど様々な施設が整備され、国際的な長期滞在型リゾート地として事業が展開されている。

## 2. 現状と課題

国勢調査の結果によると、昭和 35 年に 13,651 人であった人口が平成 27 年には 6,288 人となり、55 年間に 7,363 人（53.94%）の大幅な減少を示しており、平成 29 年 2 月 28 日現在の住民登録人口は、6,302 人となっている。人口減少の要因は、国鉄の分割民営化や国有林野事業の統廃合による労働者や家族の減少が大きく、それらに関連する工業人口の減少、離農による農業人口の減少、十勝ダム・佐幌ダム等の大型公共事業の終了により、若年層の町外流出が続き、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の割合は昭和 35 年の 60.76%（8,294 人）から平成 27 年には 54.72%（3,441 人）と減少し、65 歳以上の高齢者人口の割合は昭和 35 年の 4.23%（578 人）から平成 27 年には 34.70%（2,183 人）と増加し、少子高齢化が進んでいる。

また、狩勝高原地区には平成 28 年度に年間 216.9 千人の観光客が訪れているが、12 月から 3 月までの冬期間に 146.3 千人（67.45%）と偏在しており、夏期間における交流人口の増加が課題となっている。

このため、地域資源を活かした春から秋にかけての観光コンテンツの整備により、年間を通して安定した交流人口の誘致を図るとともに、交流体験事業のビジネス化による新たな雇用を創出し、定住を促進する必要がある。

## 3. 計画の目的

本計画は、新得町の基幹産業である農林業と観光業との連携により、本町の食や自然、歴史、体験などの魅力を発信し、交流人口の増加による地域活性化を目的とする。

#### 4. 計画の展開方向

日本一に相当する高山植物ガーデンと旧狩勝線の”鉄道”をテーマとした世界最長の鉄道庭園を目玉とし、五感や好奇心を刺激する仕掛けを取り入れ、花の景色に加えて、植物の面白さや自然との関わりを感じ、「子ども」「高齢者」「障がい者」が一緒に楽しめる施設とすることにより、交流人口の増加を図るとともに、雇用の創出を図る。

また、食、自然、歴史を観光資源として磨き上げ、広域観光周遊ルート「プライムロードひがし北・海・道」や北海道ガーデン街道協議会との連携により、「農」や「林」を活かした交流体験事業を展開し、滞在を伴うインバウンドや修学旅行等を受け入れ、宿泊客数の増加を図る。さらに、情報発信拠点として、狩勝高原地区のみならず、新得町や十勝地域の情報を積極的に発信し、地域のゲートウェイとしての機能を果たしていく。

併せて地区の農林産物を販売する直売所を整備することで、都市住民等との交流促進を図り、農村地域の振興を図る。また、施設内での作業を高等支援学校などの職業実習の場として活用し、卒業後の就業場所として雇用の確保にも努めていく。

#### 5. 計画の目標

地域資源である自然や食、鉄道を活用した交流体験事業に取り組み、交流人口の増加を図り、雇用に創出し、地域の活性化を推進する。

#### 6. 評価指標

##### (1) 交流人口の増加

狩勝高原地区の交流人口（観光入込客数）を平成26年～平成28年の691,000人から平成33年～平成35年には795,900人にするを目指す。

##### (2) 雇用者数の増加

新規常時雇用者数4名

##### (3) 交流体験受入人数

年間1,400人

#### 7. 目標の達成状況の評価等

目標年度における交流人口を調査した上で、町づくり推進協議会から意見を聞くなどして、目標達成状況の検証を行う。

## 8. 事業計画

事業内容	事業規模等	実施期間	全体事業費 (千円)	計画の目標との関連性
受付兼インフォメーション、管理事務室、カフェ兼ホール、トイレ、多目的調理室、屋外キッチン、農産物直売所、鉄道模型修理兼収納庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 棟</li> <li>・ 木造平屋建て</li> <li>・ 365 m<sup>2</sup></li> </ul>	H31～H32	208,000	<p>本町及び近隣町の情報を積極的に発信し、十勝観光のゲートウェイとしての機能を強化し、併せて農産物直売所、体験交流施設を一体的に整備することにより、農林業と観光が連携した取組による交流人口の増加、交流体験受入人数の増加を図り、地域の産業を活性化させるために必要な施設である。</p> <p>また、都市住民や子供たちの憩いや自然体験活動の場として、ガーデンや散策路、コミュニティ広場、駐車場を整備することにより、地域資源である自然や歴史を活用した取組による交流人口の増加を図り、地域の産業を活性化させるために必要な施設である。</p>
キッチンガーデン、庭園鉄道、高山植物コレクション、イベント広場、散策路、第1駐車場	A=5.92ha	H30～H32	590,800	
波の草原、木漏れ日の小道、道路線形改良		H33以降	63,000	
白の花園、水辺の森	A=1.74ha	未定	129,500	
梅園整備、芝生広場	A=8.18ha	未定	59,500	
合計			1,050,800	
※参考 平成 28 年度整備済箇所 第2駐車場 トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>A=1,825.8 m<sup>2</sup></li> <li>A=30.01 m<sup>2</sup></li> </ul>	H28	63,504	
累計			1,114,304	

## 9. 整備概要書

別添のとおり